

# 観光でつなぐ全国の「元気なむら」



ディスカバー農山漁村(むら)の宝

農林水産省が主催する「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の選定証授与式・交流会が2日、首相官邸で開かれた。769地区の応募の中から、グランプリには「株式会社べつかい乳業興社」(北海道別海町)が輝いた。特別賞・プロデュース賞は「高千穂ムラたび協議会」(宮崎県高千穂町)、同・フレンドシップ賞は「仙北市農山村体験推進協議会」(秋田県仙北市)、同・チャレンジ賞は「木頭ゆずクラスター協議会(徳島県那賀町)、同・アクティブ賞は「株式会社九神ファームめむる」(北海道芽室町)が選ばれた。3日には都内で展示・即売会(マルシェ)が開かれ、各地区が取り組みをPRした。

## ディスカバー農山漁村(むら)の宝

### 選定証授与式と交流会 安倍首相も出席し開く

選定証授与式は首相官邸小ホールで行われ、選定された30地区の代表者(1地区2



④交流会で出席者と懇談する安倍首相(左首相)から表彰を受ける、べつかい乳業興社の佐藤次春社長

人、山本有二農林水産大臣、山本幸三内閣府特命担当大臣



⑤混雑するマルシェ会場  
⑥あいさつする有識者懇談会の林良博座長



3日に東京交通会館で開かれた「展示・即売会(マルシェ)」には、選定地区30地区のうち、20地区が出展した。午前中に開かれた開会式では、農林水産省農村振興局長の佐藤速水局長と選定に携わっ

### 「マルシェ」20地区出展 活動と自慢の商品PR

た有識者懇談会の林良博座長、有識者懇談会委員の向笠千恵子氏(フードジャーナリスト)、横石知二氏(いんどう社長)らが出席。林氏は「農山漁村」と書いて「むら」と読むことを覚

山本農林水産大臣、山本内閣府特命担当大臣からの祝辞、続いて安倍晋三首相、菅義偉官房長官らも加わり、集合記念撮影を行った。大ホールに場所を移して行われた交流会では、安倍首相が農林水産省農村振興局長の佐藤速水局長の案内で各テーブルを回り、各地区の取り組み紹介の説明に熱心に耳を傾けることも、参加者と懇談した。その際、安倍首相は各テーブルを回って各地区の自慢の地場産品を手に取り試食するなど、各地区の取り組みに関心を示していた。



各地区の取り組みを紹介するパネルコーナー

えてほしい。「むら」を大切にしなければ10年後20年後、日本がどうなるか心配だ。この取り組みを盛り上げてほしい」とあいさつした。開会式終了後には、各出展者による販売が本格化。各出展者とも、地元で生産した自慢の地場産品を持ち寄り、大きな声でPRを行っていた。全国の地場産品が一堂に会していることもあって、買い物客の関心を集めた。商品を手にとって質問したりパネルコーナーに見入ったりしている人の姿が各所で見られた。



出席者による記念撮影

## 「ディスカバー農山漁村の宝」(第3回選定) 選定地区一覧

- 株式会社べつかい乳業興社(北海道別海町)
- 株式会社九神ファームめむる(北海道芽室町)
- 特定非営利活動法人美しい村・鶴居村観光協会(北海道鶴居村)
- 在来米軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会(青森県弘前市)
- 仙北市農山村体験推進協議会(秋田県仙北市)
- 東沢地区協働のまちづくり推進会議(山形県川西町)
- 農業生産法人株式会社赤城深山ファーム(群馬県渋川市)
- 株式会社めぐり(神奈川県伊勢原市)
- 一般社団法人信州いいやま観光局(長野県飯山市)
- 大地の芸術祭実行委員会(新潟県十日町市)
- シーフードカンパニー能水商店(新潟県糸魚川市)
- 魚津漁業協同組合(富山県魚津市)
- ロハス越前(福井県越前市)
- 奥矢作移住定住促進協議会(岐阜県恵那市)
- 茶臼の里合同会社(愛知県豊根村)
- 鳥羽マルシェ有限責任事業組合(三重県鳥羽市)
- 畑特産物生産出荷組合(兵庫県養父市)
- 山添村波多野地区活性化協議会「かすががーでん」(奈良県山添村)
- 株式会社ふみこ農園(和歌山県有田川町)
- 紀の里農業協同組合(和歌山県紀の川市)
- 特定非営利活動法人英田上山棚田団(岡山県美作市)
- 津浪振興会(広島県安芸太田町)
- 山口とくち和紙振興会結の香(山口県山口市)
- 木頭ゆずクラスター協議会(徳島県那賀町)
- CLT建築推進協議会(高知県南国市)
- 株式会社岡林農園(高知県越知町)
- 城島町土地改良区(福岡県久留米市)
- NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会(大分県宇佐市)
- 高千穂ムラたび協議会(宮崎県高千穂町)
- 有限会社タマレント企画(沖縄県伊江村)

## グランプリ受賞 受賞5地区 喜びの声

株式会社べつかい乳業興社、佐藤次春社長(別海町副町長)「当社は地域の安全安心な原料をしっかりと使って町のPRをしている会社。今までやってきたことを今後も地道にやっていきたい」

株式会社めぐり、千淳志社長「私たちの活動拠点は、顕微鏡で見ないと分からないほど小さなところ。今回、そこに目を向けてもらった、光を当ててもらったことが感慨深い。今後も地元でちゃんと暮らせる場をつくり、地域人材を育てていきたい」

仙北市農山村体験推進協議会、門脇富士美会長(農家の宿 星雪館代表)「普通の農家の方が普段の暮らしの中に外国の方(訪日外国人)を受け入れているところが評価されたのだと思

う。今後は、今交流を行っている方々に元気で頑張ってもらいたい。若くもどん交流に入ってもらい、地域活性化につなげたい」

木頭ゆずクラスター協議会、榑野瑞恵会長(袖庵社長)「地方(の生産現場)は担い手が少ない。このような賞をもらうと、若い人が産地を守ろうという気持ちが高ま

## グランプリ受賞 べつかい乳業興社(北海道別海町)



「酪農の町」として地元の牛乳を町民に飲んでもらいたいとの思いから、牛乳の消費拡大と健康増進を目的に、別海町が1974年、ミルクプラントを建設。別海ブランドのイメージ向上、食文化創造の拠点づくりの場として2001年、第三セクターの乳製品製造販売会社として設立された。乳製品関連産業の発展につながり、6次産業化の推進につながっている。Purina、新規就農者(研修生)にとっても、自分たちが手塩にかけた生乳が製品化され、消費者に届き、喜びの声が届くことを実感し、酪農へのやる気向上を感じている。今後は、首都圏のスーパーやコンビニなどを通じて、町の牛乳と乳製品の販売を拡大して町を全国に知ってもらい、さらなる消費拡大につなげたい。また、ベトナムへの輸出拡大が成功したことから、台湾や他の東南アジア諸国への売り込みも広げたい。



⑥べつかい乳業興社のマルシェ販売風景(同社で行われている乳製品づくり体験の様子)

国内外の販路も拡大  
「酪農の町」として地元の牛乳を町民に飲んでもらいたいとの思いから、牛乳の消費拡大と健康増進を目的に、別海町が1974年、ミルクプラントを建設。別海ブランドのイメージ向上、食文化創造の拠点づくりの場として2001年、第三セクターの乳製品製造販売会社として設立された。

現在では、牛乳とバター、チーズ、アイスクリーム、ヨーグルトなどの各種乳製品を製造。広大な草原と澄んだ空気が、摩周湖の伏流水を源とする水で育った牛乳を原料とした製品に対し、消費者から高い評価を得ている。食品メーカーや大手コンビニチェーンなどの共同開発も積極的に進め、町のPRにつなげている。同社は乳製品加工研修施設も運営し、町民らを対象にしたチーズ・バターづくりを指導している。気軽に乳製品づくりの体験ができる環境が身近にあることで、町の乳製品加工産業の裾野の広がりに役立っていると自負している。さらに品質を高めるため、牧場経営者に対してもチーズづくりを指導し、乳製品関連産業の発展向上に取り組んでいる。町内の就業の場としての人気も高く、人口流出を防ぎ、地域経済の循環にも寄与している。チーズづくりの指導による、乳製品関連産業の発展につながり、6次産業化の推進につながっている。Purina、新規就農者(研修生)にとっても、自分たちが手塩にかけた生乳が製品化され、消費者に届き、喜びの声が届くことを実感し、酪農へのやる気向上を感じている。今後は、首都圏のスーパーやコンビニなどを通じて、町の牛乳と乳製品の販売を拡大して町を全国に知ってもらい、さらなる消費拡大につなげたい。また、ベトナムへの輸出拡大が成功したことから、台湾や他の東南アジア諸国への売り込みも広げたい。

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは「強い農林水産業」「美し」を選定し、全国に発信する施策。第一回選定は2014年1月が、キラリと光る農山漁村のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことに「ロゴマークについて

農山漁村の原風景をモチーフに、知恵と工夫で地域の特色を生かした地域住民の絆、たゆまぬ向上心、やさしい手、温かい手づくりで支えるパワーが、キラリと光る農山漁村(むら)の宝」として輝きを増している様子を表している。